

■ 9月定例会の日程

《8月》

31日 本会議〔会期の決定、諸般の報告、議案説明、一般質問など〕  
決算審査特別委員会

《9月》

1日 本会議〔一般質問〕  
2日 本会議〔一般質問〕  
5日 総務委員会  
7日 文教委員会  
9日 決算審査特別委員会  
12日 決算審査特別委員会  
議会運営委員会  
13日 決算審査特別委員会  
14日 決算審査特別委員会  
20日 本会議〔委員長報告、質疑、討論、採決など〕

公共施設のあるべき姿について議論をしていただくために、市民会議を5回開催した。市民会議から、27年10月に①身の丈にあった公共施設、②まちの魅力を高めるための公共施設、③公共施設マネジメントの推進方策の3つの観点から提言をいただいた。

**問** 市民会議の提言をどのように活用したのか。

**答** 市民会議からの提言を受け、28年3月に公共施設マネジメント基本方針を策定した。基本方針の策定にあたり、提言の3つの観点を①適正化、②効率化、③魅力、④安全性、⑤実行力

の5つのキーワードとして整理した。

● 民生費

**プレミアム付商品券助成事業**

**問** プレミアム付商品券の一部を子育て支援として助成販売した中で、浮かび上がった課題は何か。

**答** 子育て支援分の商品券は予定数4千冊で先行販売した。981人に2301冊を購入いただき、販売残は一般販売とした。助成対象者の60・9%の方に購入いただき、一定の成果はあったと考える。

課題としては、多子世帯

と比較し、ひとり親世帯の購入率が若干低かった点が挙げられる。また、売り切れを不安視される方が多く、販売初日の平日は多くの来客があった反面、土日はホームページで残りの数量を周知したものの、完売したと思われるのか、来客が少なかった。希望者にはほぼ行き渡る数量を用意していたが、必ず購入できる数量を確保していれば良かった。

● 衛生費

**旧原山焼却場解体事業**

**問** 旧原山焼却場を解体する前後に、地元や地権者等と跡地利用について話があったか。

**答** 旧原山焼却場の土地は三谷町財産区が所有しており、これまで市が借用して焼却場として利用してきた。現在は、解体処理が終わり更地になっている。跡地利用については、まず地元の皆様の意見を聞きたいと考え、三谷町財産区協議会及び三谷地区開発委員会をお願いしている。

**問** 現状のままにしておくのか、それとも積極的に何

か活用する考えがあるのか。

**答** 跡地は有効利用する方向で考えている。地元からどのような意見が出てくるか分からないが、意見をもとに検討していきたい。

● 農林水産業費

**ため池等改修事業**

**問** ため池の耐震状況について伺う。

**答** 市内には比較的大きく、農業用水として使用している池が7池あり、そこを重要ため池として位置づけている。

耐震工事は県の事業であり、市は事業費の11%を負担している。白龍池（神ノ郷町）は耐震工事2年目になり、29年度に工事が完了する。28年度は補陀ヶ池（金平町）の耐震計画を策定しており、29年度に実施設計、30年度から3年間で耐震工事の予定である。大池（五井町）は補陀ヶ池の1年遅れの計画で進めていく。また、マシミ池（清田町）と大久古池（竹谷町）は、調査の結果、耐震性能があると分かった。残りの下池（鹿島町）と宇佐野池（大

塚町）は調査中である。

● 商工費

**岡崎・蒲郡インバウンド推進協議会負担金**

**問** 岡崎・蒲郡インバウンド推進協議会の事業内容は。

**答** この協議会は、蒲郡市と岡崎市及び各市の観光協会が広域的な連携をして、東アジアを中心とした外国人観光客の誘客を目的にした事業を行っている。

**問** 西尾市や豊川市も含めた連携でなく、なぜ岡崎市と連携をしたのか。

**答** 蒲郡市だけでインバウンド事業を推進してもインパクトがないので、広域的に連携したいということから、25年に岡崎・蒲郡インバウンド推進協議会を設立した。また、岡崎市と連携することで、県の観光施設費等補助金を活用して、事業を展開している。

